

「自信」は次の挑戦心を育てる？



こんなことはありませんか・・・？

5歳のまるおくんは、自転車に乗る練習をしています。周りのみんなは、補助輪なしで、自転車に乗れるようになっています。

くやしくて、時には、お父さんやお母さんに手伝ってもらって練習するのですが、手を離されると、何回も何回もころんでしまいます。ひざやひじをすりむいて、涙をこぼしたこともありました。

でも、ある時、そっと手を離しても、自分だけで数メートル進むことができました。「ひとりで乗れたな！」というお父さんの一言で、それからはめきめきと上達し、みんなと同じように自転車に乗れるようになりました。

そこには、まるおくんの得意げな笑顔がありました。



ワーク1

みなさんのお子さんも、何かに挑戦していることはありませんか？ そのときのお子さんの様子を交流しましょう。（習い事、なわとび、あやとり…など）

ワーク2

お子さんが何かに挑戦しようとしたとき、かけた言葉や行動で、うまくいったこと、いかなかったことを出し合いましょう。



◇他の方の意見をメモしましょう！



いいね！



いいね！

今日気がついたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか？



今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。



遊びなどの活動で培われた意欲や好奇心は、やがて未経験の危険や困難に出くわしても、たくましく乗り越える力となっていくんじゃ。好奇心でキラキラ輝く子どもの笑顔を、たっぷりの愛情でもっともっと輝かせてやってな。

あっそうそう、挑戦に失敗したときに「だから言ったでしょ」はNGワードじゃよ。「どんなときも味方だよ。応援しているよ。」という親の姿が、もう1回挑戦する勇気を与えるんじゃ。

◇子どもの挑戦心を育む子育てとは



ほんのささいなことでも、自らががんばってできたときに「喜び」が生まれ、「自信の芽」となります。さらに、保護者が褒めたり励ましたりすることで、子どもの「大きな自信」となっていくます。

親の心構えとして大切なのは

- ◇子どもの「やりたい!」「やってみたい!」を大切にする
- ◇結果にこだわらない

温かく見守ること

挑戦し、達成した時には

「がんばったね!」と努力や過程をほめて、一緒に喜ぶ



挑戦に失敗しても

子どもを責めたり否定したりせずに、「そうか、くやしかったんだね」と、そのまま受けとめる

次に向かう勇気や自信

がんばった自分を認めてくれる人がいるんだという心の支え



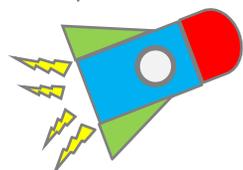
次のページの「かぞくでチャレンジカード」を使って、家族で挑戦してはどうじゃな?できた時はシールを貼ったり、色を塗ったりできるといいぞ。

例えば、お父さんは「まず話を聞く」、お母さんは「早く早くと言わない」、お姉ちゃんは「おけいこ事を休まない」、ぼくは「自分で服を着る」などのめあてを決めて、家族みんなで挑戦するんじゃ。できない日があっても、忘れていてもいいんじゃよ。できたとき、家族みんなでほめ合うと楽しくがんばれるな。

かぞくでチャレンジ

なまえ

★かぞくみんなで「めあて」をきめてチャレンジしよう！できたらシールをはったり、いろをぬったりしましょう！



なまえ	めあて	○	☆	⬠	♡	☆
なまえ	めあて	○	☆	⬠	♡	☆
なまえ	めあて	○	☆	⬠	♡	☆
なまえ	めあて	○	☆	⬠	♡	☆
なまえ	めあて	○	☆	⬠	♡	☆

★チャレンジをふりかえりましょう！